



みなさんの暮らしと
つながっています。

Vol.66

令和4年(2022年)
9月1日発行

はまた 議会だより

主な記事

6月定例会議のポイント.....	2・3
個人一般質問.....	4～9
市民対談（防災士）.....	10・11
委員会活動レポート.....	12～14



6月定例会議

今回はこれがポイント！

新型コロナウイルス感染症対策事業の 追加補正予算を可決！

6月定例会議では、市長提出議案10件と議会提出議案4件、請願3件を審議しました。

議会提案の浜田市議会委員会条例の一部を改正する条例は、新型コロナウイルス感染症のまん延や災害の発生、その他やむを得ない事由で、参集することができない場合は、委員会をオンラインで開催することができるようにするもので、全会一致で可決しました。

令和4年度浜田市一般会計補正予算（第3号、第4号）には、コロナ対策事業として物価高騰の中、国の補助事業を活用し、子ども食堂やふれあい食堂などの運営を行う団体や園児・児童生徒に食料の支援を行う団体に助成する生活困窮者自立促進支援事業として500万円。また、コロナ拡大防止措置として、市からの要請に応じて休業した指定管理施設の損失を補填する指定管理施設損失補償費として2,249万円などが計上されています。その他、美肌観光推進事業において、美又温泉・旭温泉を中心とした温泉資源を活用し、美肌ブランドの一体性とストーリー性を確立するために355万円が拡充されました。中山間地域への交流人口拡大により地域活性化につながることに期待しています。

3月定例会議から継続審査としていた、子育て支援センターの跡地を公園に整備してほしいという請願は、採択後に附帯決議案が福祉環境委員会から提案され、全会一致で可決しました。地元の中学生とまちづくり委員会からの請願により、今後の公園整備についての期待が高まったところです。

今定例会議でも21人の議員が個人一般質問を行いました。防災に関する内容や5月末に発行されたプレミアム付「はまだ応援チケット」についてなど、議長を除く全議員が熱心に質問や提案をし、活発な一般質問となりました。

トピックス

子ども食堂や食料支援 団体に運営費などを助成



テイクアウトも実施

市内の子ども食堂やふれあい食堂の運営を行う団体や、園児・児童生徒に食料の支援を行う団体に対し、運営費などの助成を行う事業を含む補正予算を全会一致で可決しました。この事業は国の補助事業を活用し、コロナ禍における物価高騰などに直面する生活困窮者に、必要な支援を届けることを目的としています。

- | | |
|----------|--|
| 問 | この助成は今後とも継続されますか？支援を検討したいです。 |
| 答 | この助成は、子ども食堂などを經由して、自治体・福祉事務所・ハローワークなどの関係機関で共有し、必要な支援を提供する「地域連携によるセーフティネット」の一環として進めています。 |
| 問 | 1団体の助成上限額は幾らですか？助成対象経費の全額を、上限50万円補助します。 |
| 答 | どのような団体が対象ですか？ |
| 問 | 生活困窮者への食糧支援として、社会福祉協議会やボランティア団体を予定しています。 |
| 答 | 困窮者対策としての支援が、市単独では効果が薄いのでは？ |
| 問 | 今回の支援策は、困窮者情報を、子ども食堂などを經由して、自治体・福祉事務所・ハローワークなどの関係機関で共有し、必要な支援を提供する「地域連携によるセーフティネット」の一環として進めています。 |
| 答 | この助成は、子ども食堂などを經由して、自治体・福祉事務所・ハローワークなどの関係機関で共有し、必要な支援を提供する「地域連携によるセーフティネット」の一環として進めています。 |

子育て支援センター「すくすく」跡地を公園に



跡地活用を検討中の旧すくすく

「松原町には公園がない。駐車場でボール遊びをしてガラスを割ってしまった。僕たちがボールを使って遊べる場所が欲しい。」令和3年のはまだ市民一日議会で中学生が訴えた、子育て支援センター「すくすく」の跡地を、子どもたちがボールで遊べる場所にしてほしいとの請願が2月に出されました。3月定例会議で継続審査としていましたが、今定例会議で、全会一致で採択し、市に要請すべき事項を明記した附帯決議を可決しました。

問 すくすく跡地の今後の方針を、市はどのように考えていますか？

答 令和4年度に建物解体し、土地の測量を行い、売却する方針ですが、浜田市市有財産売却計画の備考欄に「子育て支援センター跡地の売却は、公園などの整備計画によつては変更の可能性がある」としています。今後は普通財産として市全体の公園などの整備計画も含めて利用方法を検討していきます。

問 附帯決議の内容はどのようなものですか？

答 「浜田市の全体の公共施設などに関するそれぞれの計画との整合性を図り、広く地域住民の意見を聴き、必要な整備を検討してほしい。」という内容を市へ要請しました。福祉環境委員会で内容を協議しました。

5月臨時会議で賛否が分かれた議案はありませんでした。6月定例会議で賛否が分かれた議案は以下のとおりです。各議員の賛否や反対理由、請願・陳情審査結果などの詳細は、市議会ホームページをご覧ください。

令和4年5月 ●臨時会議● 市長提出議案1件

令和4年6月 ●定例会議● 市長提出議案10件、議会提出議案4件、請願3件

議案番号	議案名	賛成	反対
請願第4号	世界アルツハイマーデーのマリン大橋ライトアップの請願について	7	14 肥後、大谷、沖田、足立、村武、川上、串崎、上野、布施、岡本、永見、田畑、西田、川神

請願・陳情について審査しました 請願3件 陳情21件

請願の内容	提出者	結果
子育て支援センター「すくすく」の跡地を公園として整備することを求める請願について	すくすく球友会 代表 佐藤 仁 外ノ浦・松原まちづくり推進委員会 代表 牛尾 博美 浜田市松原町	採択（全会一致）
世界アルツハイマーデーのマリン大橋ライトアップの請願について	認知症のひとと家族の会島根県支部 浜田地区会世話人代表 金子 多美子 浜田市竹迫町	不採択（賛成少数）
加齢性難聴者の補聴器購入費助成制度の創設及び意見書の提出について	全日本年金者組合島根県本部石見支部 支部長 深野 政勝 江津市二宮町神主	継続審査

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

浜田市議会はSDGs(持続可能な開発目標)を推進しています。
質問内容をSDGsの17のゴールで分類しています。



市政を問う

21名が
個人一般
質問

こちらから動画をご覧ください。



すべての人に健康と福祉を

どうする？地域医療を支える人材育成！

を検討していきたい。

A 准看学校の役割は大きい。すでに奨学金、学生

宿舎提供支援なども実施

しているが、追加支援策

が必要と考えるがどうか？

Q 令和4年度予算におい

て、高等看護学校、リハ

ビリテーションカレッジ

島根への運営支援強化が

決定した。同様に准看護

学校へもさらなる支援が

必要と考えるがどうか？

A 医師の確保は県への働

き掛けや、島根大学医学

部への地域推薦制度活用

に取組んでいる。また、

医療従事者を目指す中高

生への医療体験学習など

の取組を実施している。

Q 浜田保健所管内におけ

る医師の充足率は84%、

看護職員は95・8%と決し

て高くない。今後の医療

人材育成強化に対する方

針はどうか？



川神 裕司

臨時交付金物価高騰分を活用し市民の支援を

って対応する。

A 市民は厳しい状況に置

かれていますと考え、必要

な支援にスピード感を持

て対応する。

Q 地方創生臨時交付金を

拡充し「コロナ禍におけ

る原油価格・物価高騰対

応分」が創設された。各

自治体で、生活に困窮す

る方々や子育て世帯の支

援、農林水産業者や運輸・

交通分野をはじめとする

事業者支援の取組をしつ

かりと後押しすることが

明記された。先般、会派

として緊急要望も行った

ところだが、国事業の住

民税非課税世帯や子育て

世帯などへの特別給付金

事業への上乗せや、学校・

保育所などの給食費、公

共料金などの負担軽減

トラック事業者や介護事

業者への支援など検討で

きないか問う。



佐々木 豊治



質の高い教育をみんなに

歴史の教訓が命を守る

史に学ぶことは大切。

A 歴史は繰り返すという

ことわざもあるように歴

史に学ぶことは大切。

Q 建替え検討中の郷土

資料館は浜田地震の展示

計画もある。防災の観点

から市長の考えは？

A 歴史は繰り返すという

ことわざもあるように歴

史に学ぶことは大切。

Q 阪神淡路大震災と同レ

ベルの浜田地震を学校で

伝えているか？

A 年3回の避難訓練時に

幾つかの学校では教えて

いる。今後、史実などに

基づき全学校で実施する。

Q 東日本大震災後の調査

では、災害の歴史を知る

人ほど早く避難し命を守

っている。市では災害の

歴史を伝えているのか？

A 浜田地震が発生した日

には防災防犯メールで告

知。牛市町の震災記念碑

の存在も伝えつつ、より



大谷 学

質の高い教育をみんなに

ふるさとへの愛着をつくる 教育 歴史 文化だ



芦谷 英夫

- Q** 学校給食費公会計化は急がれる問題で、その後の検討状況はどうか。
- A** 教育振興計画に盛り込み、人員確保、管理システム導入など財政負担など、他市を参考に概算の把握に努めている。
- Q** 歴史文化の理解と啓発の態勢が弱い。新しい郷土資料館の積極的な啓発や広報が必要では。
- A** 検討委員会でもまとめられた施設の在り方、情報発信、講座や出前授業など重要性は認識する。
- Q** 高等教育機関をPRし、学生募集の効果を上げる方策が必要では。
- A** 各学校や担当課などと連携し、ホームページやオンデマンドによる情報発信や合同説明会の開催など効果的な取組に協力したい。

部活動の地域移行はさまざまな視点で議論を



三浦 大紀

- Q** 部活動は任意か。
- A** 任意である。
- Q** 部活動の位置付けはどのようなものか。在学中の3年間だけでなく、引退のない活動環境が重要。
- A** 部活動は教育課程外の活動。法令上は学校が設置運営する義務にはなっていないが、教育活動の中でも大きな意義がある。
- Q** 全体移行が前提ではなく、各部活の必要性をまず精査しては。
- A** 個別詳細な調査は行っていない。
- Q** 市総体、新人総体が廃止となる。部員減少対策や教員の負担軽減が目的。段階的に部活動を地域移行しようとする国の動きをどう捉えているか。
- A** まだまだ不明確な部分が多い。引き続き動向を注視する。

歴史民俗資料の調査・整理・保管が重要



川上 幾雄

- Q** 浜田市には多くの歴史民俗資料がある。多くて整理が追い付かない資料もあるとのことであるが、調査・整理はどの部署が担うのか？
- A** 文化スポーツ課文化財係が担っており、学芸員の資格を有した職員が3人いる。
- Q** 文化財係には学芸員の資格者が3人配置されているとのことであるが、調査・整理が追い付かないということは、学芸員のみならず補佐する方が不足しており、増やすべきでは？
- A** 資料の整理・保存は大きな課題であり、まずは有する資料を整理し、保存・展示も見据えた上で、体制も整えて人も増強しながら進めていくことが必要と考える。

部活動の地域移行への具体的な方策は



総合スポーツ大会の開会式



岡本 正友

- Q** 中学校体育連盟の活動において、市総体や新人総体の廃止の見直しの内容が示された。学校の働き方改革を踏まえた部活動改革と認識するが、人間形成の場でもある部活動の意義・課題を補完できる具体的な方策は？
- A** 教育的意義の大きい部活動を持続するため、地域移行はやむを得ないと考える。移行に当たっては学校と地域団体などの連携を密に行う。具体的な進め方については浜田市体育協会などスポーツ関係団体とともに相談し、検討を進める。



働きがいも経済成長も

基幹税の適正な執行を！

- Q** 浜田市の固定資産課税率は、国が示した標準課税税率より0.1%高いが、その使途や課税税率は適正か？
- A** 浜田市は県内8市の中では一番低い状況である。また固定資産税は市の主な自主財源であり、住民サービス全般に使用している。現時点では税率の引き下げは検討していない。
- Q** 国が示した標準課税税率を超過し徴収した金額と使途は？
- A** 16年間で約42億円であり、住民サービスの維持向上のために活用。
- Q** そのためには市街地の地籍調査を迅速に進める必要があるが実施率は？
- A** 浜田市全体では約44%だが、市街地では約16%しか実施できていない。



足立 豪

プレミアム付はまだ応援チケットの検証を

- Q** 地域経済を回復させる事業者を応援するため、全業種で利用可能なプレミアム付「はまだ応援チケット」の販売があった。
- 生活支援にもつながり数日で完売したが、市民優先販売の時期や期間、発行冊数、各販売所での対応などを検証して次回発行に生かすべきだ。
- A** 市民優先販売の5日間で約2万冊、一般販売は2日間で約3万冊、7日間で完売した。優先期間が短い、発行冊数も少ない、購入券配布時期や年金受給者に配慮した販売時期の検討など課題として認識している。また、一般販売におけるマニュアルを作成し、販売所に周知したが徹底されていなかった。反省を十分生かし次回発行を検討する。



布施 賢司



人や国の不平等をなくそう

デジタル技術が不平等解消の力となる！

- Q** 浜田市の有形、無形の歴史文化資産を最新のデジタル技術で記録整理したデジタルミュージアムを開設してはどうか。
- A** 本格的に整備する場合、相應の時間と事業費、さらに維持費がかかる。
- Q** 国の「デジタル田園都市国家構想推進交付金」を活用し、記録整理は郷土史家など専門家に依頼する。児童生徒の1人1台タブレットも有効に活用ができ、資料館に行けない人もいつでもどこでも誰でも浜田の魅力、情報を知ることが可能だ。
- A** 民間の人材の力を借りてできるなら推進力になる。国も応援してくれるなら実物に触れる歴史資料とデジタルミュージアムを両立させて考えてみたい。



西田 清久



住み続けられるまちづくりを

自然災害への防災対策の進め方は

- Q** 河川浚渫の進捗状況はどうか？
- A** 令和6年度までの3年間に、緊急浚渫推進事業債を活用し、重点的に河川の浚渫を実施する。市では22河川を計画しており、今年度は9河川の浚渫を今後、順次発注する予定。
- Q** 市管理の河川で、海がしけた際に砂や漂着ごみによって河口がせき止められる。海から砂浜は県の管理だが、市と県それぞれが管理する部分の必要な作業を、なるべく同時期に実施してほしいが可能か？
- A** 市管理河川の河口が砂浜でせき止められる場合があり、県にも対応を依頼しながら、浚渫など、必要な対応を実施できるよう努める。



肥後 孝俊

住み続けられるまちづくりを

「マイ・タイムライン」の活用でハート事業



村木 勝也

Q 災害発生時の「避難の在り方」は？

A 市民は、「自らの命は自らが守る」という意識を持つこと。行政は、「市民が適切な避難行動を取れるよう支援すること」が重要である。

Q 「マイ・タイムライン」(時系列的避難行動計画)を作成・実行するには、個人が防災情報を主体的に入手することや、行政が避難情報の適切な発令をすることが大切。防災・減災にハード事業の整備も必要だが、「マイ・タイムライン」を、地域や学校、家庭などで「事前に」に話し合うハート事業も意識的に進める必要があるのでは？

A 今後も、さまざまな機会を活用して市民への啓発を図る。

農的関係人口の拡大を



串崎 利行

Q 地域農業の応援団を増やし、人手不足にも対応し、将来的には移住や就農につながるものが期待される「農的関係人口」を創出する仕組みづくりが求められるが市の考えを問う。

A 農村地域での高齢化や人口減少による担い手不足の解消のためには、農村地域の魅力を発信し、農業に関わりを持つってもらう人々を多く創出することは重要と考える。今後、浜田応援団による農業体験などを通じ、浜田応援団員の得意分野やスキルを結び付け、農業分野における地域の課題解決に向け、取組んでいく。こうした、取組を実施し、農業農村に関わる人材の裾野が広がるように努めていく。

タイムラインに基づく実践的な訓練を



柳楽 真智子

Q 今年度は住民参加型の防災訓練が行われた。今回の訓練の成果は？

A 各町内の情報を集約するシステムが確立している地域や、避難所に行く人や自宅避難など、細かい状況まで把握できている組織もあつた。

Q 個人や家族、地域のタイムライン(避難行動計画)を作成した上で、タイムラインに基づく実践的な訓練が有効だと思うが、今後の進め方は？

A タイムラインの事前作成やハザードマップの活用。避難経路の確認や安否不明者を想定した情報伝達などに取組む。

Q ペット同伴の訓練は？
A ペット同伴の把握はしていないが、大事なことで避難所運営上の留意点などを検討する。

東部消防署・西部消防署の統合は



田畑 敬二

Q 平成27年4月に東部消防署(金城・旭)、西部消防署(三隅・弥栄)を設置したが、今後の移転統合の考えは？

A 第2次総合振興計画後期基本計画で検討する。5月から消防本部内で多方面での検討を進める。

Q 住宅用火災警報器の設置義務から10年以上経過するが、設置者に対しての対応は？

A 住宅火災において、火災を早期に見出し、避難を促すためのものであり大変重要である。消防として、ホームページや広報はまだで更新・点検を促している。

Q 高齢者世帯・独居世帯へ取組方法や対応は？
A 消防団・町内会・自主防災組織などに要請し、自助の取組を検討する。



住み続けられるまちづくりを

ゆうひパーク浜田のこれからは

- Q** 買い取りについて市長の見解を問う。
- A** 全国でも数少ない公設民営の道の駅で、コロナで厳しいと聞いている。休館となれば、利用者に迷惑が掛かるので早急に不動産鑑定し、9月定例会議で報告したい。
- Q** 市民の声を聴くとおもてなしの心が足りない。全国から見える浜田の顔を何とかしてほしい。コンビニ誘致やワゴンセールなどの要望があるが、将来展望を問う。
- A** ゆうひ百選・山陰道施設内立地の唯一の道の駅なので国土交通省と協力して盛り上げたい。
- Q** 市民の声を取り入れ、反映して、指定管理委託をしてはどうか。
- A** 早速、検討してみたい。



牛尾 昭



気候変動に具体的な対策を

市民の防災意識・地域防災力の向上は

- Q** 総合防災訓練参加団体と住民の参加率は。
- A** 市全体で595の町内会の内301、7049人が参加、参加率は14%。
- Q** 前回行われた防災訓練の参加者数は。
- A** 3年前の参加者は4700人参加された。
- Q** 約半数の町内会は参加されていない。この結果をどのように受け止めているのか。
- A** 前回より1.5倍の参加人数で、一定の成果はあったが、町内会や参加人数が少ない。市民の防災意識や地域防災力向上を図るため、参加町内会を増やす必要がある。
- Q** 災害時の避難要支援者の地域支援体制は。
- A** 市民を中心とした組織と、市の関係部署が連携して支援を行う。



永見 利久



海の豊かさを守ろう

プラスチックごみゼロ宣言を！

- Q** 海に面し、水産業を基幹産業としている当市においての海洋プラスチックごみ対策の考えは？
- A** 非常に身近な問題であり、本市の魅力を維持する上で大変重要な観点だと認識している。理解や意識啓発として出前講座を開催している。
- Q** 出前講座の成果として、住民の中でプラスチックごみを減らす活動などが始まったか？
- A** 今のところはないが、今後まちづくりセンターと連携して進めたい。
- Q** 全国的に広がっているプラスチックごみゼロ宣言を水産のまち浜田だからこそするべきではないか？
- A** 重要な問題だと捉えているが、宣言については検討していきたい。



村武 まゆみ

官民連携で豊かな海を取り戻せ！

- Q** 総合振興計画に水産多面的機能発揮事業を掲げた理由は？
- A** 魚介類にとって藻場は産卵場所、小魚の生息場所であり、水産資源の増殖にとって必要不可欠と考え、漁業資源確保対策を目的として掲げた。
- Q** 取組状況は？
- A** 今年度は、瀬戸ヶ島沿岸で藻場の保全、小型漁礁の設置、食害生物の駆除を予定。八戸川、三隅川流域でヨシ帯の刈り取り、競合植物の除去などを予定している。
- Q** 水産資源の増殖と沿岸漁業者の所得向上につながる可能性がある。この取組を市内全域に広げていくべきでは？
- A** 必要な取組と認識しているが、人手の確保など課題もある。



沖田 真治



陸の豊かさを守ろう

自然環境を守り生かす対策を

- Q** 農地保全の観点から外国産の農産品に頼らず、地域環境型の地産地消を推進すべきでは？
- A** 大変重要な事項と認識しており、引き続き地産地消推進に取組む。
- Q** 農地の大区画化、効率化へ区画整備を進めて環境が整えば、耕作放棄地も減少・解消されると思うが？
- A** 圃場整備の実施要望がある地域は事業実施に向けて検討する。
- Q** 棚田百選に選ばれた「都川の棚田」を見に来られる方のために手入れが欠かせない。高齢化も進み、維持管理も難しく、地元の負担を少なくする支援が必要では？
- A** 引き続き維持に向け、地域と連携し、補助金を活用して保存に努める。



上野 茂



平和と公正をすべての人に

子どもたちの疑問に応え、解決への平和教育

- Q** ロシア・ウクライナの戦争が長期化し国際情勢が変化する中であって、適切な平和教育の定義とは何かについて問う。
- A** 平和教育は日本国憲法の崇高な理念に基づいたもの。自他を尊重し合うこと、我国の社会・文化への理解と愛情を深め、国際協調の視点に立ち、恒久平和を願う国際貢献する人づくりを基本に平和教育はなされている。
- Q** 戦争の原因や背景、終結の考え方などの指導内容、子どもたちに伝える大切なことは何か。
- A** 原因などをキチンとひもとき伝えることは難しいことだが、命の尊さ、自分と他の人の大切さを認める、人権感覚を大切にする教育に結び付けることが重要と考える。



小川 稔宏

主権者教育推進の取組 ～島根県立大学との 共同研究と議場見学～



浜田市議会では、令和4年度から主権者教育の推進に取り組んでいます。平成28年7月の参議院選挙から選挙権が「18歳以上」に引き下げられたこともあり、若者の政治参加意識を育むことを目的に昨今注目されている取組です。議員定数等議会改革推進特別委員会の検討結果（令和3年7月）においても、その必要性が明記されています。

島根県立大学との連携事業の一つとして、光延特任教授と議会が一緒になって、効果的な主権者教育を研究することになりました。7月12日には、同教授の地方自治論の講義を受講している11人の大学生が議場見学に来られ、議長が対応しました。



議員や議会の活動をどのように情報収集したらよいか…住民参加を促すためにどのような取組をしているか…など質問は多岐にわたりました。

主権者教育の推進は、若者に選挙へ行ってもらふことや、投票率を上げるためだけに行っていることではありません。自ら考え行動する力を養ってもらふことを期待するものです。共同研究の進捗は、はまだ議会だよりで報告していきます。

市民対談

第7回目の市民対談として、浜田市防災士連絡会に所属されている2人の防災士の方にお話を伺いました。

(インタビュアー：沖田 真治、川神 裕司)

「備えあれば災いなし！」地域で守る尊い命

浜田市防災士連絡会

防災士 金崎 智子さん

防災士 山本 稔さん



向上心を持って高めていく防災力

——浜田市内で防災士として活動されている方は何人で、どのような活動を行われていますか？

山本

現在、浜田市防災士連絡会に所属している防災士は25人で、男性16人、女性が9人です。毎月第3水曜日の夕方から

定例会を行い、情報共有や研修会など行っています。また、各地域から要請があつたときには出前講座の講師を務めます。

——防災士の資格を取得しようと思われたきっかけは？

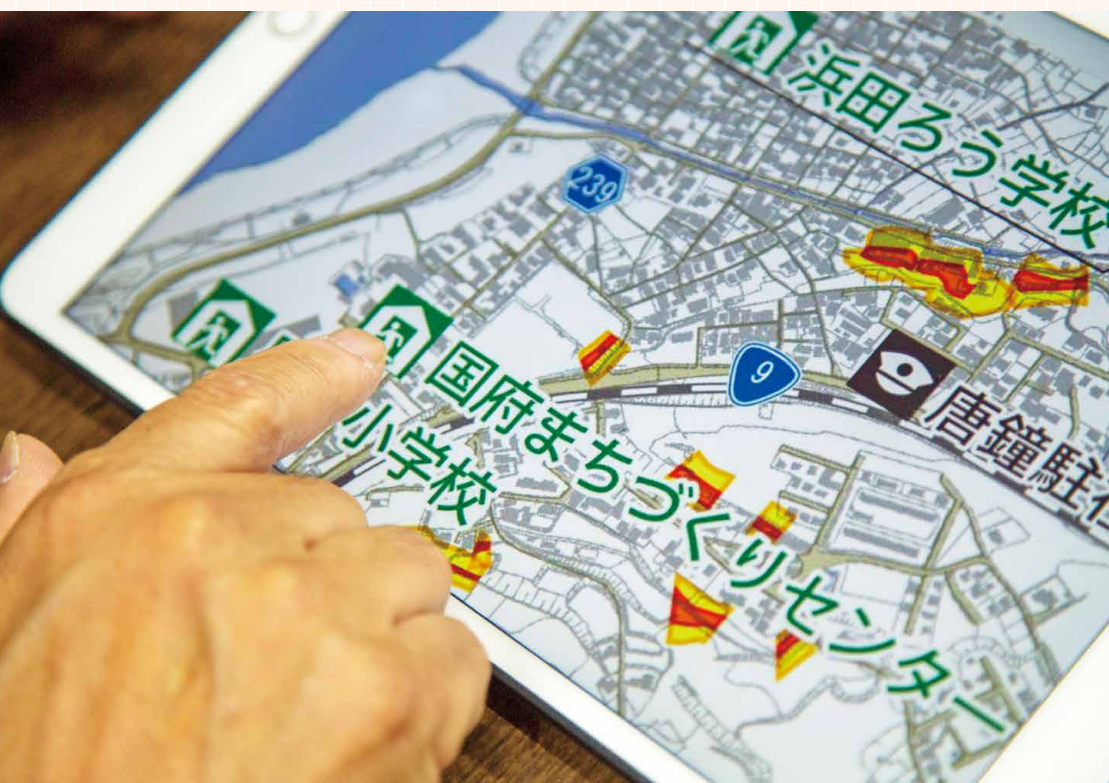
金崎

もともと「防災士

という資格に興味があり、防災に関する書籍を読むなどしていました。もつと学んでスキルを身に付け何らかの形で生かしたいと思っていたときに、所属している消防団に3人程度の資格取得のための助成制度の推薦枠があつたのでその機会を利用しました。

山本

地元消防団員としての活動の延長ですね。昭和63年の豪雨被害のときには、土石流で倒壊した家屋からの救助を経験しました。また、当時、国府小学校で防災訓練が行われ、訓練に参加し児童に災害について話したこともありました。金崎さんと同様に消防団員として同じ制度を利用し、資格を取得しました。



多様性も 兼ね備えた 地域防災へ

— 女性防災士が9人おられますが、実際の活動で女性の視点が生きたことはありますか？

金崎 避難訓練の際にも避難場所や細やかな点に気づくことが多いです。分からないことを聞きやすい点もありますので、避難所の受付などは女性のほうが良いと思います。しかし、実際に力仕事は男性のようにはできませんので、人材を適材適所に振り分けることが重要だと思います。

人を守るのは人しかない！ 関係づくりが大切

— 自主防災組織がある地域とない地域がありますが、何が要因であると思いますか？

金崎 私の住む田町は何度も水害を経験している地域で、ハザードマップを見ても危険度は高く、災害に対する危機意識は高いです。早くから自主防災組織が立ち上がった地域だと思います。

山本 私の住む唐鍾地区は田町とは対照的に町全体で災害を経験していない地域で自主防災組織もありません。市内でも大

災害に見舞われた地域とそうでない地域では防災意識に差はあるように思います。近年、大災害が頻発していることもあり、

多くの人の防災に対する意識は高まりつつあると思いますが、組織立ち上げを率先して行うリーダー的存在が地域にいないことも組織化につながらない大きな要因であるとも思っています。

— 今後の自主防災組織が取組むべき課題は？
山本 心配なのが要支援者の避難です。これは自



主防災組織だけで考える課題ではなく、地域のさまざまな団体が要支援者の情報や避難体制などを共有できる仕組みづくりが重要です。その中心

な役割を担えるのは自主防災組織であり、組織化は地域にとって必要です。私もできる限り唐鍾地区を含め、組織化されていない地区での組織立ち上げに協力していこうと思っています。

金崎 世代を問わず、「災害時に優先すべきことは自分の命は、自分で守ること」ということを話し合う場です。コロナ禍でもあり、段々とその機会がなくなっているように思います。そして、災害時に最も身近にいる可能性が高いのは近所の方です。普段から顔見知りの

関係づくりが重要です。災害時に1人では何もできないことを誰もが知っています。田町も現在に至るまで試行錯誤し活動を行ってきたこともあり、防災を通じ地域の団結力が高まったと思っています。今後はまちづくりの要素を取り入れた、楽しそうな企画や気軽に参加できるような防災イベントに挑戦するなど頑張っていきたいと思っています。



右：金崎 智子（かねさき ともこ）さん
浜田市防災士連絡会に所属。平成27年に防災士資格を取得。田町まちづくり推進委員会で自主防災会の役員として活躍。浜田市消防団にも所属し、25年目を迎える。

左：山本 稔（やまもと みのる）さん
浜田市防災士連絡会に所属。平成23年に防災士資格を取得。唐鍾自治会副会長・国府地区民生委員児童委員として活躍。浜田市消防団に32年間在団し、平成31年に退団。





総務文教委員会

市民の生命と財産を守る機材の取得などについて審査

6月定例議会で総務文教委員会へ付託された市長提出議案3件を、6月23日に審査しました。さらに、石見まちづくりセンター（仮称）長沢サブセンター建設整備計画に関わる「陶芸の里」の検討状況についてなど、6件の所管事務調査も実施しました。これらの中でも市民の安心安全につながる高規格救急自動車（救急車）と小型動力ポンプ付軽積載車（ポンプ車）の更新取得についての内容を報告します。救急車は、購入から15年間使用して老朽化したので、改装費用を含め約1,700万円の車体に自動心臓マッサージ器などの医療機材約1,600万円分を搭載した救急車を更新取得して、市内で年間約2,800件の救急要請に対応するものとのことでした。また、ポンプ車も購入から25年以上が経過しているので、1台約610万円で4台更新し、長浜・木田・今市・和田の各消防分団に配備される予定とのことでした。これら機材は、もしものときに市民の生命や財産を守るために整備するものですが、その出動は限りなく少ないことを願いたいものです。



高規格救急自動車の内部



小型動力ポンプ付軽積載車（同型車）

福祉環境委員会

「就労支援を含めた障がい者支援」を取組課題に

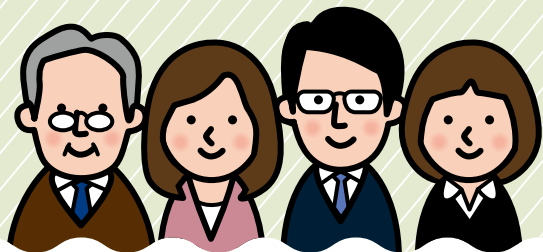
福祉環境委員会では、執行部との勉強会や協議を重ね、今後委員会として取組むテーマを、全ての市民が暮らしやすい社会を目指すために「就労支援を含めた障がい者支援」に決めました。

もう一方の、安心して暮らせるための柱でもある「健康寿命の延伸」も重要な課題ですが、この課題は、比較的個人一般質問で対応されることが多く、障がい者支援に関することは、議員個人で取り上げることが少ない現状があります。また、障がいにも種別があり、種別ごとに課題や必要とされる支援も違い、多岐にわたることから、委員会として調査・研究するべきと判断しました。浜田市では「浜田市障がいのある人もない人も共に生きることができまちづくり条例」が制定されていますが、この制定後の実施状況や効果が検証されていないことも課題と捉えています。

障がい者の方で働きたくても働けなかったり、働き始めても環境になじめず長続きしなかったりなどの課題もあります。「80・50」や「親亡き後」の問題も喫緊の課題で、自立支援の充実も重要です。



このような課題や条例検証の必要性などを鑑みて、特に「衣食住」からの支援、生活や就労に係る課題についての現状を把握するとともに、当事者の声を聴き、浜田市としてできることを検討していきます。



委員会活動

産業建設委員会

個人漁業者と意見交換会を実施

当委員会では、人口減少が進む浜田市における一次産業の後継者不足対策として、まずは浜田市の基幹産業である漁業に携わる3人の方々と、漁業者の抱える課題や問題などについて意見交換をしました。

【退職後一本釣りを営んでおられる方】

- ・父の船を引き継いだが、古船であり新船を検討したが周辺に造船所がない。
- ・市場に多く出荷しているが、漁業だけでの生活は成り立たなく貯えで補填している。



【Uターンして漁業研修を受けながら自営を目指しておられる方】

- ・浜田を選んだきっかけは、知人のブログを見て興味を持ち、島根人の人柄にほれた。
- ・Uターン前の収入に比べ現在は約半減しており、妻と子供2人との生活に不安がある。

【飲食店を経営しながら漁業を営み始めた方】

- ・Uターン後、飲食店の経営を始めたが、衰退していく町を見て貢献できればと漁業に取り組む。
- ・現在は兼業だが、漁業を確立したら店舗の展開や県外への販売も考えている。

以上は、3人の方との意見交換の一部ですが、浜田の漁業が抱える問題点や課題が浮き上がってきました。「海が好き」との皆さまの思いが生かせる提言がなせるよう、今後検討していきます。

議会運営委員会

参集が難しい場合にはオンラインで委員会開催が可能に

多発する自然災害や重大な感染症の流行などで、議員が参集することが困難な場合でも、議会として意思決定をするため、議員がオンラインで各種委員会に参加できるよう、条例や規則の改正の発議を議会運営委員会の提案で行い、その他の申し合わせ事項の内容を協議しました。申し合わせ事項の内容を少し紹介します。

- ・自然災害発生時や重大な感染症の流行時の他、議員が育児や介護などで出席が困難であるときもオンラインでの出席が可能に
- ・オンラインによる出席ができる会議は、常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、全員協議会など
- ・公述人、参考人もオンラインで会議に出席可能

議員に貸与されているタブレットを用いて、Zoomの活用を想定しています。今後は、議員研修などをオンラインで開催してみるなど回数を重ねて、いざというときに迅速に対応できるよう準備を進めていきます。オンラインで視察を行ったり、受け入れをしたり、オンラインで議員研修を受講したりと、オンラインの活用が広がってきています。



委員会活動レポート

議会改革推進特別委員会

委員会代表質問実施要領を作成

当委員会で検討してきた委員会代表質問について、6月13日に検討結果を第1回報告にまとめ議長に提出しました。委員会代表質問の導入目的は、各常任委員会の専門的視点を生かして、所管事項の政策立案及び政策提案を積極的に行うことで、質問内容は委員会での総意によるものとしています。

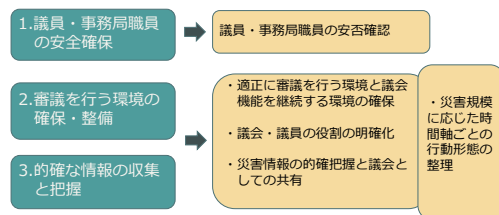
実施時期や質問の順番、対象委員会、実施方法等については「委員会代表質問実施要領」に決めました。なお、委員会代表質問を行う議員（委員）は個人一般質問をすることができることとしました。

議会BCPは検討継続中

浜田市議会BCP（業務継続計画）の検討を進めています。

7月の第9回特別委員会では、浜田市議会BCP（案）を基に①浜田市議会災害等対策支援本部設置要領（案）の組織や所掌事務、議員の任務などの条項について、②議会BCP（案）での議長の役割、

【議会の基本的機能の維持】



③想定する地震、風水害など災害の種類や規模、④市の業務継続計画や地域防災計画との整合性や議会の災害対策支援本部と市の災害対策本部と設置基準や議会と市との関係について検討しました。今後、災害発生時における災害対応の具体的な行動や議案審議継続方法などについて詳細な検討をしていきます。

協働のまちづくり推進特別委員会

26のまちづくりセンターを訪問し、聞き取り調査を実施

5月9日から26日にかけて、委員8人が4班に分かれ26カ所のまちづくりセンター職員とのヒアリングを実施しました。公民館からまちづくりセンターに変わって1年が経過したところで、以下の内容などを聞き取りました。

- ・「協働のまちづくり」について、地域にどの程度意識が浸透しているか
- ・今センターで特に力を入れていること、困っていることや改善したいこと
- ・まちづくりコーディネーターとはどのように連携を取っているか
- ・地区まちづくり推進委員会や地域協議会とどのように関わっているか
- ・その他学校など定期的に連携を持っている組織、団体があるか
- ・将来像として今後、どのようなセンターにしていきたいか、そのための改善点は



多くの貴重な意見を頂き、出されたものをリストアップし、見えてきた課題などを検証します。7月にはまちづくりコーディネーターとの意見交換会を行いました。協働のまちづくりの推進についての調査や研究に反映させ、活動拠点の整備や若い世代が参加しやすい機会づくりなど、市に対して提言を行うことを目的とし、引き続き取組を進めます。

読者アンケートはまだ議会だより

前号のアンケートへのご協力、ありがとうございます。今回はVol.65に寄せられたご意見・ご要望に対する回答を掲載します。

※紙面の都合上、一部のご意見・ご要望を要約して掲載しています。



自由意見



防犯カメラの増設や通学路にある増水時に危険だと感じていた側溝への蓋の設置など、身近なところで改善を感じ嬉しく思います。社会が変化している今、予算をかけて大きな箱物を作るような従来型の町づくりではなく、長期的な視点でコツコツと一人一人の住みやすさを積み上げていくことが、地域の課題解決につながるのではないかと感じます。今後浜田市には何が残るのか、何が必要なのかを考えて動ける議員さんを期待しています。

ご意見ありがとうございます。今後もご期待にお応えできるよう活動してまいります。

(総務文教委員会)



コロナ禍の今、带状疱疹が増えていると聞きます。私の妹が60代でかかり、本当に苦しんだ姿が怖くて忘れられません。どうか助成金を考えてください。

さまざまな予防接種の助成については事業化されているものもありますが、带状疱疹など事業化されていない疾病があることも承知しています。市民生活への影響や皆様の理解等を勘案し引き続き調査研究を進めてまいります。

(福祉環境委員会)

全てのご意見・ご要望と回答はHP上で公開しています。



キトリ



はまだ議会だより Vol.66 読者アンケート

お 住 ま い	年 齢
町	歳
Q1 今号で気になった記事はどれですか？その理由は？	
①ポイント、トピックス(P2,3) ②市政を問う(P4~9) ③まるよみ(P9) ④市民対談(P10~11) ⑤委員会活動レポート(P12~14) ⑥読者アンケート(P15)	
理由 ()	
Q2 自由意見(浜田市議会へのご意見やご要望などをお聞かせください)	

最寄りのまちづくりセンターの回収箱へご投函ください。ウェブでの回答はこちらから。⇒
集計の都合がありますので、9月末日までにご回答をお願いします。



今年も開催します！

はまだ市民一日議会



日時

令和4年

10月16日(日) 午後2時から

会場

浜田市議会
本会議場(浜田市役所5階)

発言
定員

10人

※応募者多数の場合、初めて申し込まれる方を優先し、抽選を行います。
※詳細は、折り込みのチラシをご覧ください。



9月 定例会議の 予定

9月1日(木)から29日(木)までです。
個人一般質問は9月2日(金)から7日(水)。
ぜひ傍聴にお越しください。
※日程が変更になる場合があります。

はまだ議会だより miniも 見てね



8月1日号はご覧いただけましたでしょうか。
浜田市議会HPにウェブ版として掲載しています。
こちらのQRコードからぜひご覧ください。
次号は10月1日に発行予定です。
お楽しみに～♪

表紙について

フランスの児童が描いた「水」という作品。浜田市世界こども美術館で開催中の「川とあそぶアート展」に展示されている1枚です。壁面を浜田川に見立てたインスタレーション作品をはじめ、「川」をテーマに制作されたさまざまなアート作品も紹介されています。会期は9月25日(日)まで。

議長なんでもメール

議長や市議会に関するご意見・ご要望・ご提言など
お気軽にお寄せください。



編集委員

委員長		副委員長		委員	
三浦	大紀	村武	まゆみ	肥後	孝俊
川上	沖田	大谷	村木	小川	裕司
川上	幾雄	真治	学	上野	裕司
神	裕司	裕司	裕司	裕司	裕司

(記 肥後 孝俊)

台風シーズンとなりますが、皆さま油断せずに備えてください。
6月定例会議では、個人一般質問で多くの議員が自然災害への対策について質問しました。災害が起きないことが第一ですが、毎年のように異常気象が続く中で、災害の発生を常日頃から想定して、備えることが必要です。

今年にはラニーニャ現象により梅雨入り前からとても暑い日々が続きました。読者の皆さまそれぞれに、暑さ対策をされたことと思いますが、私が教えてもらった対策の一つを紹介します。それはトマトやスイカなど旬の赤いものを食べることで、身体を中から冷やすということです。感心しました。

あとがき

★この議会だよりは一部あたり41・8円(税込)でできています。